

○第42回（平成27年1月29日）評価委員会評価

今年度の連携排砂は、7月14日から7月16日にかけて実施された。

出し平ダムからの排砂量は、目標排砂量32万 $m^3$ 、想定変動範囲の15万 $m^3$ から43万 $m^3$ に対し、実績は32万 $m^3$ となる結果となった。

水質、底質及び生物相の環境調査結果をみる限り、連携排砂による一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。

今回の連携排砂における実施経過及び環境調査結果から以下の知見が得られた。

◇水質調査について

湛水池では、

- ・概ね過去の測定値の範囲内であった。

河川では、

- ・排砂時において、宇奈月ダム直下のSSが過去の測定値の範囲を上回ったが、その下流観測地点では例年の平均の測定値程度に収まっていた。宇奈月ダムにおいて、SSの最大値を低減するよう検討していく必要がある。
- ・それ以外の項目については、概ね過去の測定値の範囲内であった。

海域では、

- ・代表4地点（C点、A点、河口沖、生地鼻沖）において、概ね過去の測定値の範囲内であった。

◇底質調査について

湛水池では、

- ・概ね過去の測定値の範囲内であった。

河川では、

- ・概ね過去の測定値の範囲内であった。

海域では、

- ・一部の地点でCOD、全窒素、全リン、硫化物等において過去の測定範囲を外れる値があった。引き続き注視していく必要がある。

- ・ O R P については、水温との関係を確認すること。

◇水生生物調査について

- ・ アユの体長・体重・肥満度について、排砂がない常願寺川と同様な結果であることが確認できた。
- ・ 河川では付着藻類、海域では植物プランクトンの生物相の変化が見うけられていることから、原因等の調査が必要である。
- ・ ダム放流を減じる際の急激な河川水位の変動については、魚類に配慮した検討をすること。

◇今後の留意点

- ・ 連携排砂、連携通砂の実施については、今回の審議内容を踏まえ、次年度の排砂計画に反映させること。
- ・ 既往観測値の変動幅については、考え方を整理すること。